

宮崎県総務部総務事務センター

「ライフプラン」に思うこと

宮崎県総務部総務事務センター 課長 清藤 荘八

これまでのライフワーク

今から41年前、昭和57年4月に県庁に入庁することになった。最初に配属になった所属先が県職員の福利厚生担当課であった「職員厚生課」である。考えてみればそれから16の所属等を経験し、最後に拝命を受けたのが、現「総務事務センター」である。

これも何かの縁であろうか。スタート地点に戻ってきたが、その間多くの職員と接し、多様な業務をこなし、色々な活動（遊び）もやってきた。担当する業務に取り組むことは公務員として当たり前だが、私はそれ以上に休日を含むアフター5の活動に明け暮れていたように思う。今思えば、家族にいらぬ苦勞をかけていたのかもしれない（いや、間違いない…）（心の中で…「ごめんなさい」と謝ろう）。

そんな私ではあるが、一番の理解者は妻であったであろう。これまでの生活（ライフ）を振り返り妻には感謝の言葉しかない。私のすることに何一つ文句も言わず、楽しそうに子育てもしてくれた。今の若い世代にこんな話をしたら、間違いなく理解されないだろうが。

そんな妻は令和3年1月に61歳の若さで息を引き取った。病名を告げられて、たったの2週間で私と息子たちの前から旅立ったのである。

今、私がいる「総務事務センター」は、職員の福利厚生事業等を担う最前線である。

当然のことながら、職員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の支援等も行。充実した仕事をし、楽しい生活・休暇を過ごすことが理想ではあるが、まずは職員自身の健康管理、家族の健康管理を第一に考え、その上でのライフワークのあり方を職員に問い、支援していきたいと思う。皆が元気で楽しい生活を送るために…。

これからのライフワーク

そんな私も、定年退職が近い。さあ～どんな「第二の人生」を送ろうか？ 定年延長に飛び乗るか…はたまた別の職業を探そうか…悩み多き令和5年である。第二の人生と言っても、今や人生100年時代の到来。まだまだ40年もあるのだ。

一つ思うことがあった。人間の営みの原点に返ることも必要ではないかということ。常々、金曜日のテレビ番組『金スマ』内のドキュメンタリー「ひとり農業」を見て、憧れる自分がある。実家に帰れば、わずかばかりの畑もある。チャレンジも十分可能だ。当然、遊び事も忘れてはいない。壮年（還暦）の野球・ソフトボールチームからのお誘いも受けている。ボールに飛びつく元気と気力、ヒットを打ったときの喜びや負けたときの悔しさが続くうちは頑張ってみたいと思う自分がある。若い時分に見た60歳は老けたイメージがあったが、今の60歳は全然若い。いや、70歳でも現役バリバリである。

定年延長もよし、違う職業選択もよし。色々な可能性を探り、これからの楽しみを思い巡らせながら、私のライフワークを思い描くこととしよう。

最後に思うこと

どんな仕事・生活環境であっても、苦楽は付きものだ。ならば、どうすれば快適なライフワークを過ごせるか。決まった答えはないし、人生のルールも敷かれていない。

私の投稿記事を読んでいる皆さんはどんな感想、考えを持たれただろうか。これまでのライフワークを今一度見つめ直し、将来（未来）に向かって有意義で楽しくなるようなポジティブな発想で、これからの素敵な「ライフプラン」を描いてほしい。